

九州電力は、くじゅう連山の平治岳北部で、地熱発電の可能性を探る調査を始めると発表しました。

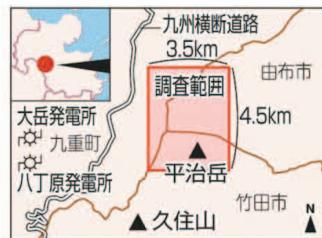
九州電力が地熱調査をする平治岳の北部 山頂から、九州電力提供



九州電力は17日、くじゅう連山の平治岳北部で、地熱発電の可能性を探る調査を始めると発表した。日本は世界3位の地熱資源国だが、開発規制などから2000年以降、新たな発電所は稼働していない。九電独自の新規調査は数十年ぶりとなる。再生可能エネルギー導入促進の機運が高まる中、大分県に豊富な地熱の新たな活用が進むか、注目される。

## 平治岳北で地熱発電

平治岳北部の地熱調査について説明する九州電力地熱グループの龟之園弘幸課長 17日午後、県庁



6月ごろから周辺にある温泉の温度や流量の測定、成分分析など経年変化の調査をスタート。7月から5カ月かけて地表調査を実施。热水がたまっている可能性のある割れ目の有無、热水で変質した岩石の分布

調査するのは由布、竹田、大岳、滝上がある。1980年代の国の調査で地熱資源の存在可能性が確認されたが、国立公園のエリア。近くには地熱発電所で国内最大の八丁原(出力11万2千瓩)のほか

## 九電、可能性探る調査へ

①調査地点に近いところにある、国内最大の地熱発電所はどこですか。

九電は「地熱は国産で地球温暖化対策にも優れたエネルギー。地域の理解を得ながら調査・開発を推進していく」としている。

島市で新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の調査井を開き、7月には本社(福岡市)に地熱センターを新設する。

九電は「地熱は国産で地熱調査に協力している。九州内の地熱資源の積極活用に向け、7月には本社(福岡市)に地熱センターを新設する。

②期待される地熱発電だが、開発が進まない理由は何だろう。

③地熱発電の仕組みを勉強しよう。

など地下構造を調べる。

地表調査の結果を踏まえ、地元関係者と協議した上で、実際に井戸を掘った

調査に進む計画。地熱発電は安定電源として期待されるが、開発期間が10年を超し、有望地が規制の強い国立公園内に多いのがネック。泉源の枯渇を心配する周辺温泉地の理解を得る必要もあり、開発は進んでいない。

調査に進む計画。

(2013年5月18日朝刊1面)